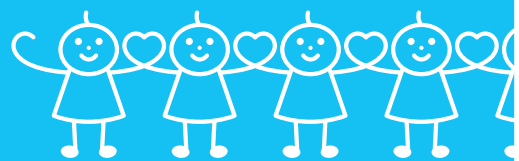


Get in touch!

つながる。よりそう。



3・11日以降、日本は変わりました。

未曾有の災害、そして原発事故。いまだに続く不安定な状況のなかで、みな、家族、友だち、ふるさと… 自分の大切なものについて考え、これから先、どうやって日本で、どんなふうに生きていくのか想いをめぐらせています。

被災地で、こんなことがありました。

避難所で自閉症の子どもが、ときどき大声を出してしまいます。地震・津波の恐怖が蘇るのでしょうか。

近くにいたおじさんが「うるさい！ 静かにさせろ」と怒鳴りました。

ふだんならそんなことは言わない人かもしれません。

でも、みんな避難所生活で、疲れと不安が限界を超えていました。

怒鳴られたお母さんは、そのお子さんを毛布でくるみ押さえつけて、あやまりました。

「ごめんなさい。すいません。申し訳ありません」と……。

お母さんも、お子さんも、怒鳴ってしまったおじさんも、

辛い、哀しい想いをしたことでしょう。その周囲にいた人たちも……。

みなに迷惑をかけるからと避難所で過ごすことができず、車の中で何日も生活したり、親戚の家を転々としたり、今回の震災で、行き場を失った家族が、たくさんいました。

苦しい、哀しい想いをしたのは、自閉症の人たちだけではありません。

「わたしはお墓に避難します」と言って自死された高齢者の人がいました。

日本語がわからないため、避難するのが遅れてしまったり、

配給される水や食糧をもらえなかった外国の人もいました。

障害があったり、高齢であったり、国籍が違ったり、社会的弱者といわれる人たちは、

社会が不安に包まれたとき、よりいっそう追い詰められ、

不自由な生活を強いられる、そんな現実がありました。

だけど、わたしたちは考えます。

どんな状況でも、どんな状態でも、みんなで寄り添い、生き抜いていきたい。

被災した人もしていない人も、障害のある人も、障害のない人も、

みんなでまぜこぜになって、日本を復興させたい。

そんな同じ思いの仲間が集まり、よりあって、アイデアや人脈やお金をだしあって、

手弁当で今回のイベントを企画しました。

わたしたちは、つながります！

オノ・ヨーコ

アスペ・エルデの会

Autism Speaks

日本発達障害ネットワーク

NPO法人 東京都自閉症協会

IJの会

日本財団

東 ちづる

